（郵信省認可）　（本號六面）　明治二十二年九月十八日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千四百十六號　水曜日
明治廿二年九月十八日
舊暦巳丑八月廿四日　（丁、酉）
日出午前五時二十七分　日入午後五時四十三分
月出午後十一時二十八分　月入午後一時四十七分
潮汐午前十時十六分　午後十一時十六分
（西暦一千八百八十九年）

時事新報

今より早く官吏を減ずべし

今の政府は官吏の過多なるは明白なる事實なりとして先年來經費節減論の喧しかりしが爲め度々政府部内に改革の沙汰ありて減じては又殖え、殖えては又減じたりしが其減じたる場合に何か多少の不都合を來したるやと云ふに決して然らず事務は却て圓滑活潑なりしとの事實を見ても冗員徒に多くして偶々事務を滯澁せしむるを證するに足るべし左れば近來官制改革などとて朝野に議論を確はしたれども我輩は先例に照して充分に斷行する能はざるみともやと竊に期待する能はず蓋し情實酌量も可なり權力平均も可なりと雖も此等は今日は通用すべき談にして明年に至り國會の開設あるときは政府は事毎に明瞭なる答辯を與へざる可らずして不言の意味を以て訴ふるみと能はざれば一切萬事公明正大なる無情論と覺悟せざるを得ず扨議事は經費論に移り各省の定額を議するとせんに其定額とは官吏の俸給、諸買物、旅費等にして就中俸給は其最多を占め他の買物旅費等も亦是れ官吏の員數に應じて增減するものとせば先づ第一に其官吏は如何に事務を執りつゝあるやの疑問を生ずべし答へて曰く官吏一日の勤務時間は概して六時間より多からずと又問ふて曰く六時を一年三百六十五日に乘ずるときは二千百八十時なれども日曜の一日、土曜の半日、大祭祝日、歲首歲末の休暇を加ふるに暑中の賜暇を以てし又十人の私に就ても遠方の墓參自身病氣の養生等都て寬大なる缺勤を許さるゝの例にして又その毎日六時間と云ふ其六時とても必ずしも六時ならずして特別の官局特別の事務の外は先づ以て閑散なる方なれば官途全體の人を平均して其執務の時間を精密に計算するときは一年の勤勞或は一千時間にも足らずして毎日二三時に過ぎざる可し而して其勤勞の報酬なる月給年俸は隨分豐にして民業世界よりは容易に得べからざる所のものなり日本の經濟に於て勢利者の多數は農民にして其農民の苦樂如何を尋ねれば星を戴いて出で月を負ふて歸り雨に風に寒に暑に骨を碎き身を粉にして正月も于蘭盆の外は休みと云ふとあるを知らず茅屋に住居し煤烟に咽び食に肴なく着るに襤褸なく其勢働の時間は毎日必ず十時間以上にして一年少なくも四千時間に下らず之を官途の執務に比すれば四倍の相違を見る可し或は體力を役すると腦力を勞するとは一樣に論ずる可らず官途の勤務は精神の事なり精神の勞に酬るものは筋骨の役に酬るよりも豐なる可き筈なりとの說もあらんなれども民間の事は農業のみにあらず之より以上に進んで尋常一樣の商家又は工業家に至りては其事務都て腦力の運用なれども凡そ日本國中如何なる商工と雖も一年を平均して一日八九時間を働かざる者はなかるべし之を要するに民業と官業との其勞逸を比較するときは三四倍の差あるは數ふ於て爭ふ可らざるの事實あれば今若し官途の事務を執るみと民業の如くならしめなば必ず三四倍の事を成す可し或は之を逆にするときは今の官吏の數を三四分の一に減ずるも實際に差支はある可らず即ち各省の定額中にある官吏の俸給旅費等は現在の三四分一に減ずる可きみあらずや云々とて單に費用の一點より徐々に質問して止まざるみともあらんには國會の本色に於て私情を酌る可らず内實を言ふ可らずして政府の當局者も必ず答辯に困却するみとあるべし或は議員等が次第〳〵に熱度を增して遂には議院最終の權利に依賴し天皇陛下に上奏あどするみともあらんには其事たる空漠たる理論よあらずして數留するとも有て陛下御鑑識の大臣と雖も亦強ひて辨護するに苦しむなきを期す可らず國會の圓滑は我輩の最も願ふ所にして少々の道理を犧牲にするも顧みるに違あらずとは平生の持論なれども議事の始末右の如くにして實際に爭ふ可らざるの掛念もあらんには今より忍んで情實を去り官吏の沙汰を斷行するみろ策の得たるものなれ我輩は國家の經濟の爲め又現内閣の安全の爲め敢て當路者に勸告する者なり

雜報

○醇親王の病氣　醇親王は久しき前より病に罹り療養の手を盡せども容易よ全快せざるを以て過日李中堂等の勸めに從ひ天津より洋醫を呼び寄せ其療治を受けしに處昨今大よ快方に向ひ筋骨の作用殆んど平生に復したりと云ふ

○李鴻章氏の健康　先頃李鴻章氏病に罹れりとの風說ありたれど近着の支那タイムスの報ずる所にはへば李氏は心身共に頗る壯健にして昨冬の病氣の跡方もなく日々煩多の事務を處理すれども爲よ少しも身體を害するみとなしと云ふ

○ヴヰルテンブルヒ氏　陸軍大學校雇教官普國參謀少佐フオン　ヴヰルテンブルヒ氏は來る十月一日より美濃及び尾張地方に於て執行する參謀旅行演習實況視察の爲め來る二十九日東京を出發するよし

○新造艦赤城　神戸小野濱海軍造船所にて新造中の砲艦赤城は既に進水を終り目下同所船渠内よ於て機關部其他室内の取付工事中よて落成は來る十一月下旬の豫定なるが砲門は多分横須賀へ廻船の上備付るならんと云ふ

○露國軍艦　エルメルチーフチーク號は去る十五日午前十時函館へ向け横濱を拔錨せりと

○主計學校の新築　高等商業學校内の主計專修科は過般同校附屬主計學校と改稱し隨て其規模をも擴張する筈なれども現今の場所よては何分狹隘なるより今度神田錦町三丁目（元高等中學校跡）に新築する事とありしよ起工よ着手したるよし

○參謀旅行演習　陸軍參謀本部にては來る十月一日より美濃尾張兩國地方よ於て秋期參謀旅行演習を執行するに付き各鎭臺及び旅團の參謀官は孰れも來る三十日迄に名古屋又は岐阜の兩地に集合する事に決し川上參謀統監は同二十九日東京を出發する筈なりと又同本部に於て是迄參謀旅行演習を執行するときは其以前よ各參謀官を召集して數日間統監より參謀旅行演習に關する諸講義をなし來りたりしも最早各參謀官とも右演習執行法にも熟達したるよしにて今回の演習よりは同講義を廢するのみならず該演習法の種類は之れを三種に區別し第一國防軍第二内國軍第三外國軍等の方法に基きて官賊二派に別れ其方法とても施行の當日迄は之れを秘密に爲し置き演習執行よ際し統監より不時に命令する豫定の由なるが這回の旅行演習は軍人社會よ取りては頗る見ものなりといふ

○五箇年間大儉約　北海道根室市中には概して戶毎に五箇年間大儉約と書したる木札を入口の上に掲げ居る由なるが是迄は兎角其奮を守るものなく往々遊惰に耽るものの多かりしに退々出渡の六ヶ敷みとを知りたるにや本年の如きは鯽、昆布等の收獲例年より多きよも拘はらず一般に儉約の風を起し漸く門前の木札に對し恥しからぬ有樣になれりと同地よりの通信に見えたり

○地金銅の買入　毛受駒次郎氏が朝鮮政府と約束を爲し昨年中内地より銅の地金を輸出し朝鮮よ於て錢の鑄造に着手したるも遂に三萬圓計の損失を生じて中絕せしが今度同國政府よて典圜局に命じ漢錢を鑄造する其銅を日本より買入るゝに付兵庫の北風丈平、大坂の銅商坂本平三郎毛受駒次郎の三氏外同國出張店の濱田組等は連合して大坂其他よ於て地金の買入に着手したるよし

○蔬菜の騰貴　今度全國の風災雨害にて米穀の騰貴せしみとは近來の珍事なれば隨て凡百の需用品價格を引上げざるものなく魚類の騰貴は喰はずして妨げあるも大根菜葉の如きは貧民に取りて欠くべからざるものなるに是は實際非常の損害を破りし爲め忽ち四分一の騰貴を來し例へば大根一本若くば茄子十箇にて一錢五厘の品は二錢と爲り猶昇進すべき氣配あれば家族五六人も抱へ居れる人力車夫等が中々求め得べき限りにあらず驚を掛めて引割麥を喰はんか引割麥も一升に付一足飛ひ二錢の直上げと爲りたれば只寄るも集ふも糊口よ苦しむの話のみなりと

○柿の風害　柿の風害は前號の紙上にも記したるが同品の本場と唱ふる處澤邊の風害は殊よ甚ざしくして目も當られぬ有樣なれば本年は柿の直段は非常の騰貴あるべしとの見込なりと

○木曾富士の立往生　會津富士と稱へし天造の盤梯山すら時としては灰石を噴出して山嶽崩壞の異狀を呈するみとのあるものを況して人造木製の富士が暴風大雨に襲撃されて異變なきを保ち得べけん一時磁石力を有して府下の士女を北方へ吸ひ寄せたる淺草公園の富士は去る十一日の暴風雨に頂上の飾り物は何所に吹飛ばされしや影だよ止めず外面の土壁は剝げ落ちて所々に大なる穴を開け五臟六腑も外面より見透く有樣と爲りて如何にも哀れなり東坡が之を見たらんには丈高く胴小にして肉落ち骨出づるとやはんと此の損害は莫大にして中々修繕の屆く所にあらざるべしされど發金人も高さ十八間といふ構造あれば先づ滿二箇年位の見込みを着け居りしといへば此の災難に逢ひしも蓋し覺悟の上にやあらんか

○布哇出稼人　去る十四日横濱入港の山城丸にて到着したる山口縣人男四百人、女百人、廣嶋縣人男三百九十九人女百人、福岡縣人男三人女六人は明十八日出帆の同船にて出稼の爲め

○和歌山縣下水害　同縣下全體よ及ぼし

に取調の着く筈も

取調は着きたりとす

れ丈左に掲ぐる統計

せざるのみならず

のあれば是等を省き

と云ふ

死亡者	男女	
負傷者	男女	
全流家		
半流家		
全倒家		
半倒家		
浸水家屋		
流失家財		

○大坂出水の續報　模樣は前號の本紙よ

なりたれは一時一寸

々は十二日午後より

早水防の戒嚴を解く

濱、三ヶ牧、交野郡諸

ずして人家を浸し

極めしは嶋上郡五領

が五領村は以前の水

く退水して尙地所の

たる事なれは全村一

を生じ忽ち飢餓に迫

本村も同樣にて潰家

達したれば是等をば

り焚出米を給與し現

て大坂府醫事課より

米三十石を出し炎太

實況は目下取調中よ

綿作稻作を始め其他

就ても心配し居るよ

米國の人情

第十九　新聞事業の壯大快刻より紐育の大新聞者は手に銘々探り得政治、文學、稗史等の肩にては一人の記者賀し或は一欄に認ひ記ひべしと命ずるも長短を限るよ一往一は斯く一應記者の注等の請所に赴き注文今度は華盛頓、ボス、港、巴里、倫敦、伯餘名の通信者と電信注文する趣きは先ら

記者伯林の通信者に

る事柄か

伯林通信者答へて曰

する一件あり